

の持揚協力は中央機關より建設にありて

加五案

あはれ協会は本邦第一案の目的を貫徹す、あり故に協会は

要あり時又ははせぬ以上のあはれ協会の申請あり自ら時あはれ協会を

案す

加六案

本邦協会の事業を遂行す、あり故に協会は本邦協会に

就て多量金助支ち及融出方法を決定す、とす（各案毎一月）

二回融出

加七案

本邦協会は昭和九年三月二日より之を實施す

宣言草案

神戸地方労働者諸君

我國の労働者総数は四百八十八万を越えてゐるが其内四百五十余万人は未組織労働者であり組織労働者は全労働者の七分五厘僅に三十六万人に過ぎぬ。しかもその組織労働者は九百四十の各労働組合に分散し、此を資本家が自らの利益のために組織してゐる各種団体は比較すれば甚だしく分勢であることは言を俟たぬ。

労働者の斯く加き状態は例へば百人の者が急流を渡らむとするに當つて船に乗つて渡らんとすもりが七人せきく、でまとの者は思ひくは裸で泳いで行かんとする。椀をもちである若しも社会の流れが緩やかであるならば此でいゝなう、けれども現在資本主義の全体的没落期に當面し社会の風波は激烈を極めてゐる。此の時労働者が自らの利益を守らむに互に手を握りて立ち上る能力がなく社会の急流に抗すための組織をもつ意義がないならば多くのものは此の流れの中に溺れ労働者全体としても下へく、古しい生活、押し流されざるを得ないことは明かである。

かくり加く自ら組織する能力をもたざる者は遂に自らの前途を打開すも凡そ手段を欠くもりとして社会の救ひの網に入らぬこと、密慮の施設にすべからざるを得ないやあらうか若しがかりし修めな状態に陥ること多快としないならば我々は先づ労働者同志が自らの前途を開いて行く方法を具体化、実行しなすればならぬ。我々は此の現実を、必要を初歩的活動の機軸は實に日本労働組